

日本×東南アジアの映画・映像専攻学生が フィリピンで共同制作した短編映画をウェブで公開 「...and Action! Asia#03: 映画・映像専攻学生交流プログラム」実施報告

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)アジアセンターは、日本と東南アジアで映像制作や映画理論を学ぶ学生を集め、グループワークを通してアジアで共に生きる者としての共感や共生、そして将来の作品作りの糧となるグローバルな視野を育むことを目指し、「...and Action! Asia: 映画・映像専攻学生交流プログラム」を2015年より実施しています。

3年目となる本年は、フィリピン大学フィルム・インスティテュート(University of the Philippines Film Institute)と共催、アテネオ・デ・マニラ大学(Ateneo de Manila University)、デ・ラ・サール大学聖ベニルド校(De La Salle -College of St. Benilde)の協力を得て、今年2月末からの13日間にわたり、フィリピンにて、プログラムでは初めてとなる日本国外での映画制作ワークショップを行いました。

ワークショップには日本、フィリピン、インドネシア、タイ、マレーシアの5カ国から映画・映像を専攻する学生19名が集まり、3本の短編映画制作が行われたほか、フィリピン映画界を牽引する映画監督や脚本家らによる特別講義が行われました。完成した3本の短編映画がフィリピン大学 Cine Adarna にて上映された際には、作品に対する講評もなされました。

本短編映画は、本日からオンライン上で公開を開始しました。

(URL: <http://ifac.jp/culture/news/and-action-asia03-170330/>)

記

- 【事業名】 「...and Action! Asia#03: 映画・映像専攻学生交流プログラム」
- 【日程】 2017年2月26日(日)～3月10日(金)
- 【場所】 フィリピン大学(University of the Philippines Film Institute)、
アテネオ・デ・マニラ大学(Ateneo de Manila University)ほかフィリピン・マニラ圏内
- 【主催】 国際交流基金アジアセンター
- 【共催】 フィリピン大学フィルム・インスティテュート
- 【協力】 アテネオ・デ・マニラ大学、デ・ラ・サール大学聖ベニルド校
- 【協賛】 Sony Philippines
- 【参加校】 フィリピン/フィリピン大学、アテネオ・デ・マニラ大学、デ・ラ・サール聖ベニルド校
インドネシア/ジョグジャ・フィルム・アカデミー(Jogja Film Academy)
タイ/バンコク大学(Bangkok University)
マレーシア/マレーシアサラワク大学(Universiti Malaysia Sarawak)
日本/日本映画大学、名古屋学芸大学、東北芸術工科大学、早稲田大学
- 【特別講師】 ビアンカ・バルブエナ(プロデューサー)、カルロス・シギオン・レイナ(映画監督)、
アルマンド・ラオ(脚本家)
- 【映画公開URL】 <http://ifac.jp/culture/news/and-action-asia03-170330/>

以上

<短編映画制作について>

日本と東南アジアの映画・映像制作を学ぶ学生を対象に、フィリピンの文化社会に関連する主題と制作条件のもと、5分以内の短編映画の企画公募にてプログラム参加者を募集。フィリピン大学フィルム・インスティテュートを中心とする審査により参加者及び映像化する3本の映画企画を決定、日本と東南アジアの学生と指導教員の混成班を構成したうえで、フィリピン・ケソン市内にて映画を撮影、完成させました。



【制作日程】2017年2月27日（月）～3月7日（火）

【撮影地】フィリピン大学敷地内、ケソン市内

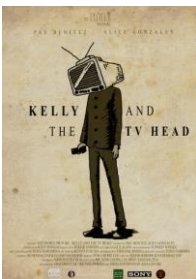
【基本テーマ】以下のいずれかのテーマから映画企画を作成。

1. Student Life（学生生活）
2. Impressions of Manila（マニラの印象について）
3. Richness and Diversity in Cultures（文化の豊かさ、多様性）

【撮影機材提供】デ・ラ・サール大学聖ベニルド校、Sony Philippines、フィリピン大学

【編集機材提供】アテネオ・デ・マニラ大学

<完成作品について>



作品名：KELLY AND THE TV HEAD

あらすじ：

今日はケリーの誕生日。親友のジェイドは彼女にとっておきのサプライズプレゼントを用意していた。ショッピングの代わりにケリーが連れてこられたのは、町の映画館。そこでは彼女の過去を思い起こさせる、予期せぬ映画体験が待っていた――。

スタッフ：Nur Ikmar Bin Sarbini, Katrina May B. Banaag, Egha Muhammad Harismina, Supakit Sonsee, Kento Fukuda, John Peter Cadiz Chua, Gilan Paolo P. Ilagan, Yow Chong Lee（引率教員）



作品名：TASTE OF LIFE

あらすじ：

タイ人でイスラム教徒のフード・ブロガー、ナムはフィリピン料理の記事を書くため、フィリピンを訪れる。どこか素っ気無い態度の女性ガイド、リリーが彼女を地元の店を案内するが、誤って豚肉料理を食べさせてしまう。この失敗を埋め合わせるべく、リリーはナムにフィリピンの牛肉料理「ブラロ」を紹介する。全ての料理を食べ終えた後、二人の距離は縮まり、互いを理解するようになる。二人の間には、友情以上のものが芽生えていた。

スタッフ：Attawut Intagoon, Lorenzo Miguel B. Hilario, Evan Secunda, Nehemiah Yap Jia Sheng, Koichiro Ishii, Alphonzo C. Alejandro, Nunatanat Duangtisarn, Yusmita Akhirul Latif（引率教員）



作品名：RED

あらすじ：

ひとりの大学生が混乱に陥っていた。彼は彼の色を探し求めている。それを見つけようとしたとき、彼はいろんな障害に直面する。

スタッフ：Kenji Hayashi, Brainard Bill Barrinuevo, Anthony Saleh Ngau, Katrina Ysabel Villarosa, Herry Setyadi, Tin Chanabangkaew, Makoto Watanabe（引率教員）

<...and Action! Asia#03: 映画・映像専攻学生交流プログラムについて>

2015年、日本を含むアジアの映画・映像分野を学ぶ学生による活発な対話や交流のプラットフォームを構築し、これによりアジア域内での交流の裾野を広げ相互理解を促進し、将来的な国際共同製作の可能性を導き出すことを目的として開始した映画交流プロジェクト。2020年に向けて毎年、日本または東南アジアのいずれかの国で各国の学生と教員が集い、その協働プログラムを通して、世界に向けた国際的感覚を培うとともに、各国間の映像教育における継続的なネットワークの形成と交流を促進することを目指します。

Webページ：<http://jfac.jp/culture/dictionary/andactionasia/>

Facebookページ：<https://www.facebook.com/andActionAsia/>



<過去の実績>

※第2回 (2015年度)

- 【日程】 2016年3月6日(日)～15日(火)
- 【場所】 日本(日本映画大学ほか、東京都内各地)
- 【参加校】 インドネシア/ジャカルタ芸術大学、タイ/シラパコーン大学、
フィリピン/フィリピン大学、ベトナム/ホーチミン映画演劇大学
ミャンマー/ヤンゴン国立芸術文化大学、
日本/日本映画大学、早稲田大学、立命館アジア太平洋大学
- 【主催】 国際交流基金アジアセンター
- 【共催】 日本映画大学
- 【協力】 早稲田大学、立命館アジア太平洋大学
- 【概要】 インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、ミャンマーの大学で映画・映像を専攻する学生と指導教員が共に来日し、日本の大学生と一緒に、10日間のワークショッププログラムに参加。日本滞在中、日本と東南アジア5か国の学生は混成チームを構成し、東京を舞台にした短編映画の企画作成とリサーチ、そしてプロフェッショナルを講師に迎えて企画プレゼンテーション(公開)を行いました。また、映像表現と映画発信について多角的な視野を養う機会として、日本国内の映画関連施設の視察や現役映像制作者による特別講座を実施。

※第1回 (2014年度)

- 【日程】 2015年3月8日(日)～3月17日(火)
- 【場所】 日本(日本映画大学ほか、東京・大阪・京都市内各地)
- 【参加校】 インドネシア/ジャカルタ芸術大学、タイ/シラパコーン大学
フィリピン/フィリピン大学、日本/日本映画大学
- 【主催】 国際交流基金アジアセンター
- 【共催】 日本映画大学
- 【概要】 インドネシア、タイ、フィリピンの大学で映画・映像を専攻する学生と指導教員が来日し、日本映画大学の学生と一緒に、東京、大阪、京都での10日間のプログラムに参加。各自の短編映像の上映とディスカッション、各国の映画産業・映画文化についてのプレゼンテーション、大阪アジア映画祭など日本の映画上映現場の視察などに取り組んだ。